

龍川ノ河床附近ニ開口シ石墨片岩中ヲ北東ニ向テ掘進セルモ結果良好ナラスシテ中止シ現時廢頽シテ之ヲ檢スルヲ得ス、是レ久根ノ鑛床ノ鑑先ヲ探鑛セルモノナルモ附近ノ地質構造ニ徵スレハ恐ラクハ其上部ヲ掘進セシモノナラン又其南西對岸ニテ施行セル試錐ハ南東五十度ニ傾斜シテ掘下シ該處ニテ母岩ハ略ホ北東ニ走り北西五十度内外ニ傾斜セルヲ以テ圖示スル地層ノ厚サハ略ホ實際ノ厚サニ近キモノト知ルヘシ(圖第四十五參照)

圖五十四第

井錐試岸對野上  
圖狀柱質地



(二) 鮎釣及大井鑛山

(イ) 位地及沿革

鮎釣及大井鑛山ハ磐田郡山香村鮎釣ニアリ久根鑛山ノ南東約一里ノ地ニ位シ水

窪川ヲ隔テ、相對ス

是等二鑛山ハ元淺間鑛山ト稱セラレタルモノニシテ其發見ノ時代ハ舊記ノ徵スヘキモノナキヲ以テ明カナラス、明治二十三年ニ至リ横濱ノ人田野某茲ニ稼行シ年一萬二千斤内外ノ製銅ヲ出スニ至リシモ其後經營宜シキヲ得スシテ休山ノ悲境ニ陷レリ、同四十年名木元平之ヲ買收シテ鑛區ヲ切半シ主トシテ水窪川ノ左岸ニ頒布スル鑛床ヲ探鑛シ之ヲ鮎釣鑛山ト稱セリ、其後或時ハ稼行シ或時ハ休業シ斷續常ナク巡回當時亦休業セリ

之ト相前後シテ鹿兒島ノ人濱田某水窪川ノ右岸ニ頒布スル鑛床ヲ探鑛シ之ヲ大井鑛山ト稱セリ、同四十一年ニ至リ高田商會ノ有トナリ爾來小規模ナレトモ繼續シテ或ハ探鑛シ或ハ採掘シテ今日ニ及ヒ巡回當時亦小規模ノ探鑛中ニ屬セリ

## (ロ) 鑛 床

鮎釣鑛山ノ鑛床ハ石墨片岩中ニ、大井鑛山ノ鑛床ハ綠簾綠泥片岩中ニ賦存シ共ニ北々東乃至北東ニ走リ西北西乃至北西三十度乃至五十度ニ傾斜スルヲ普通トス、

而シテ層位上鮎釣鑛山ノ母岩ハ大井鑛山ノモノ、上位ニ屬セリ、而シテ鮎釣鑛山ニテハ一般ニ鑛床ノ上下ノ盤肌判然シ、中石ニハ多少鑛染狀ヲ成セル黃鐵鑛ヲ見ルモ上下ノ兩盤ニハ殆ント之ヲ見ス、加フルニ鑛床ノ母岩ノ片理ヲ切レルモノ少ナシ、即チ層狀ヲ成セル所多シ、之ニ反シテ大井鑛山ノ鑛床ハ其盤肌ノ判然スルモノト然ラサルモノト殆ント相半ス、是レ一ニハ既記ノ如ク域内ノ綠色片岩(角閃及綠泥片岩ヲ總稱ス)ニ黃鐵鑛ヲ含有スルニ因ルナラン

## (ハ) 鑛石ノ性質

鮎釣鑛山ノ鑛石ハ黃鐵鑛、黃銅鑛、磁硫鐵鑛及石英ノ密雜スルモノナリ、一般ニ甚シク硅質ニシテ久根鑛山ノ中鑛及「ガリ」ニ該當スルモノ多ク縞狀構造ヲ呈スルモノ比較的少ナシ、本山ノ鑛石ノ特性ハ磁硫鐵鑛ノ多量ナルコトナリトス、其現出狀態ヲ觀ルニ常ニ黃銅鑛及石英ト共ニ密ニ混交シ鑛床ノ肥大セル所ニ限ルモノ、如ク黃銅鑛ヲ見ル能ハサル鑛石中ニハ亦殆ント磁硫鐵鑛ヲ缺クヲ普通トス、大井鑛山ノ鑛石ハ其成分ハ前者ト相同シキモ一般ニ黃銅鑛著シク増加シ久根鑛

山ノ上鑛ニ該當スルモノ多シ、聞ク其最良ナルハ百分中三十内外ノ銅ヲ含有セル所アリシト、中鑛以下ノモノニハ縞狀構造ヲ呈セルモノ多シトス、而シテ兩鑛山ノ鑛石ヲ比スルニ鮎釣鑛山ノモノハ磁硫鐵鑛多キヲ以テ青銅色ヲ帶フルモ大井鑛山ノモノハ黃銅鑛多キヲ以テ殆ント黃銅鑛ニ近キ色ヲ呈ス、是等兩鑛山ニテ採集セルモノニ就キ本所分析係ニテ分析セル結果左ノ如シ

| 採集箇處       | 鑛種  | 銅     | 鐵     | 硫黃    | 砒酸    | ニッケル | 亜鉛   |
|------------|-----|-------|-------|-------|-------|------|------|
| 鮎釣鑛山 上中央坑  | ガリ  | 一〇・九  | 三二・五〇 | 二五・六  | 三〇・九三 | 現存セス | 現存セス |
| 同 一番坑      | 銀ボウ | 〇・七八  | 二五・五二 | 二四・五五 | 三三・七一 | 同    | 同    |
| 同 二番坑 (龍歌) | 上鑛  | 八・四六  | 一五・三三 | 一六・四三 | 五〇・二一 | 同    | 二・一九 |
| 同 三番坑 (龍歌) | 中鑛  | 五・一〇  | 二〇・一六 | 二・〇二  | 四三・二九 | 同    | 現存セス |
| 大井鑛山 大切坑   | 上鑛  | 一四・八三 | 三一・六五 | 二六・六七 | 一二・六四 | 同    | 同    |
| 同          | 銀ボウ | 〇・四三  | 二四・六七 | 二六・六七 | 一七・九七 | 同    | 一・三六 |
| 同          | ガリ  | 一・八二  | 三九・五一 | 四六・八四 | 七・七〇  | 同    | 現存セス |
| 同          | 同   | 一・四九  | 三一・六五 | 三五・七四 | 二三・五四 | 同    | 同    |
| 同          | 銀ボウ | 〇・四五  | 二六・三〇 | 三三・五五 | 二六・六三 | 同    | 一・五〇 |

茲ニ注意スヘキハ是等二鑛山ノモノニハ他ニ其例少ナキ、亞鉛ヲ含有スル事ナリ  
トス

## (二) 產 額

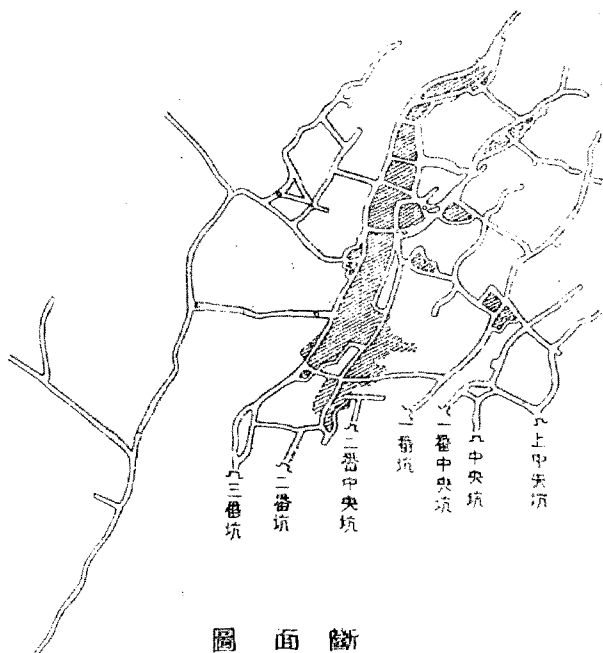
是等兩鑛山ノ年產出額ハ大正五年以前ノ事ハ何等ノ記錄ナクシテ明カナラス、大  
正五年以降休山スルニ至ルマテノ年產出額ヲ表示スレハ次ノ如シ(精鑛ニシテ單位英噸)

| 年<br>次  | 產 額      |          |
|---------|----------|----------|
|         | 鮎 釣 鑛 山  | 大 井 鑛 山  |
| 大 正 五 年 | 一、四九〇・八八 | 一、四六一・二五 |
| 同 六 年   | 三、四四七・一一 | 二、五四八・六六 |
| 同 七 年   | 一、八八九・九八 | 八七七・二六   |
| 同 八 年   | 一五四・六三   | 九七六・九七   |
| 同 九 年   | 七六・九七    |          |

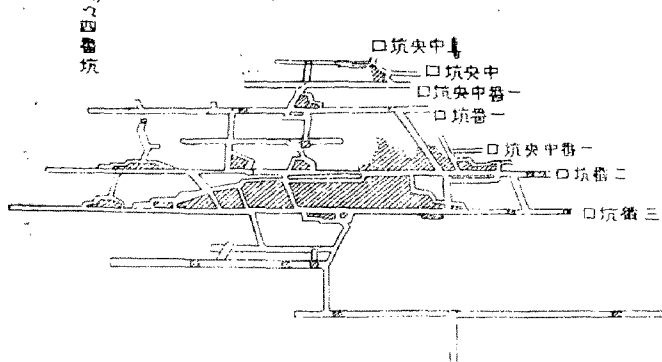
## (甲) 鮎 釣 鑛 山(第四十六圖參照)

鮎釣鑛山ノ鑛床ハ上、中、下ノ三鑛ヨリ成リ北十五度乃至四十度東ニ走リ西北西乃

圖六十四第  
圖面平內坑山鑛鈞鮎



圖面斷



縮尺三千分之一

第四十七圖

上中央坑ニ於テ鑛床ノ賦存狀況

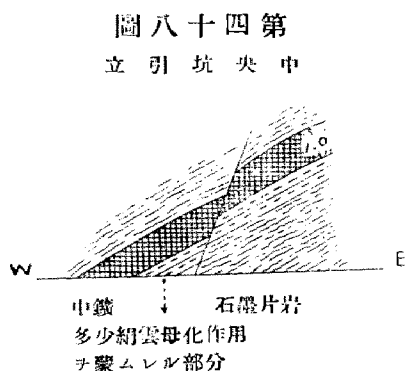


至北西三四十度ニ傾斜ス、其厚サ上鑛ハ一尺乃至四尺、中鑛ハ一尺乃至九尺、下鑛ハ一尺乃至三尺ニシテ其間十三尺隔リシヲ最大ナリシト云フモ現時ハ其大部分採掘セラレテ龍頭及引立ニ就キテ窺知スルニ過キス、而シテ上下兩鑛ハ膨縮ノ變化急激ニシテ斷續常ナカリシモノ、如ク現時檢スルヲ得ルハ大部分中鑛ナリトス、之ニ開口セルハ上中央坑、中央坑、一番中央坑、一番坑、二番坑、二番中央坑、三番坑及四番坑ナリ

上中央坑 ハ露頭ヨリ鑛床ノ下盤ニ沿ヒ北西ニ向テ掘進シ、坑口ヨリ十五六尺ニシテ坑道二岐ス、其間鑛床ハ幅六七寸乃至二尺ニ過キス、西北西ニ向ヘルハ鑛床ノ傾斜ニ沿ヒ掘下セル第一掘下リニシテ鑛床ノ幅五尺内外ニ肥大セリト云フモ既ニ採掘跡ニ屬ス、北東北ニ向ヘルモノハ厚サ一尺五六寸ノ鑛床ヲ鑛押ニ掘進セルモノニシテ該分岐點ヨリ約七十五尺ニテ中央坑ニ貫通セル第二掘下リアリ、該附近ニテハ鑛床ハ幅五尺内外ニ肥大セルモ更ニ夫レヨリ北東ニ向テ鑛押ニ掘進セル坑道ハ七十五

六尺ニシテ現時ノ引立ニ至ル、其間鑛床ハ漸次縮迫シ現時ノ引立ニテハ第四十七  
圖ニ示スカ如シ

中央坑及一番中央坑 ハ上中央坑ニテ探掘セル鑛床ノ下部ニ向テ掘進セルモノ  
ニシテ坑口ヨリ六七十尺ノ處ニテ互ニ貫通シ且上中央坑ノ第一掘下リト會セリ、  
該附近ニテハ鑛床ノ幅約尺ナリ、夫レ五ヨリ北々東ニ向ヒ約九十尺ニシテ上中央  
坑ノ第二掘下リニ會シ且ツ同處ヨリ一番坑ニ貫通セル掘下リアリ、其間鑛床ノ幅



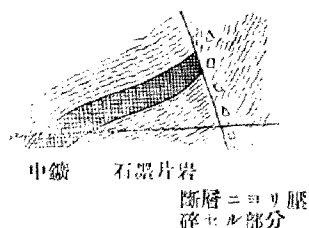
ハ二尺四五寸ナリ、局部ハ斷層ニ斷タル、モ其落差極メ  
テ小ナリ、該分岐點ヨリ北東ニ向ヒ約九十尺ニシテ現時  
ノ引立ニ達スヘク其間鑛床ノ幅ハ一尺五六寸ニシテ膨  
縮急激ナラス、現時ノ引立ニ於ケル鑛床賦存ノ狀態ハ第  
四十八圖ニ示スカ如シ

一番坑 ハ一番中央坑ノ下部ニ向テ鑷押ニ掘進セルモ  
ノニシテ露頭部ニ開口セリ、坑口ヨリ約六十尺ニシテ二  
番中央坑ニ貫通セル第一掘下リアリ、其間鑛床ハ幅一尺



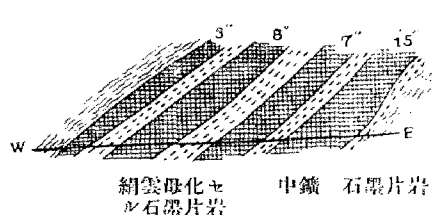
圖十五第

立 引 坑 番



圖九十四第

頭龍ルケ於ニ下掘ニ第坑番一

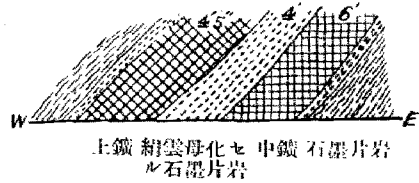


五六寸ニシテ膨縮ノ變化甚シカラサリシト云フ、夫レヨリ北東ニ向ヒ約百尺掘進シテ第二掘下リ及一番中央坑ニ貫通セル掘上リアリ、其附近ニテハ鑛床ノ幅ハ一番中央坑ニ向テハ五六寸トナレルモ二番坑ニ向テハ肥大シテ五尺内外ニ達セリ、然レトモ該處ニテハ第四十九圖ニ示スカ如ク鑛床ハ分レテ四體ニナレリ、更ニ夫レヨリ北東ニ掘進スルコト約六十尺ニシテ二番坑ニ貫通セル掘下リアリ、其附近ニテハ鑛床ノ幅二尺五六寸ナリ、更ニ北東ニ百八十尺掘進シテ現時ノ引立ニ至ルヘク、其間二箇處ニ掘上リアルモ何レモ二三寸乃至六七寸ノ鑛床ヲ追跡セルモノニシテ鑛床ノ漸次縮迫セルヲ以テ中止セリト云フ、現時ノ引立ニ於ケル鑛床賦存ノ狀態ハ第五十圖ニ示スカ如シ

二番坑及二番中央坑ハ石墨片岩中ニ開口シ、幅一尺五六寸ノモノニ體ヨリ成レル露頭ヨリ上盤ニ沿ヒ北々東ニ向

圖一十五第

頭龍リ上掘一第坑番二

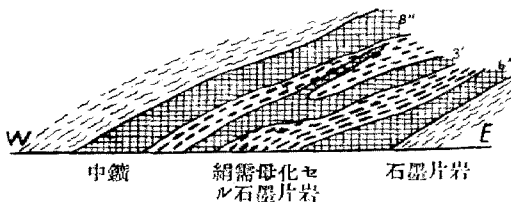


番坑ニ貫通セル掘下リト合ス、其附近ニテ鑛床ハ十尺内外  
アルモ四五尺ノ絹雲母化セル石墨片岩ヲ隔テ二體トナレ  
リ、夫レヨリ坑道ハ二ツニ分ル、即チ一ハ一番坑道ト本坑道  
トノ中間ニテ東北東ニ掘進セルモノニシテ其引立マテ約  
百五十尺アリ、其間鑛床ハ一尺五六寸乃至四五尺ノ間ヲ膨  
縮シ現時ノ引立ニテハ第五十二圖ニ示スカ如シ、二ハ北東

テ銅押ニ掘進シ、坑口ヨリ約四十五尺ニシテ三番坑ニ貫通  
セル掘下リアリ、夫レヨリ北東ニ七十尺内外掘進シタル所  
ニテ二番中央坑及一番坑ヨリノ掘下リト貫通セリ、其附近  
ニテハ鑛床ハ幅十尺乃至十二尺ニ肥大セリ、現時殘存セル  
龍頭ニ就キテ見ルニ鑛床賦存ノ狀  
態ハ第五十一圖ニ示スカ如シ、夫レ  
ヨリ更ニ北東ニ進ムコト約二百十  
尺ニシテ一番坑ヨリノ掘下リ及三

圖二十五第

立引坑段中ノ坑番二

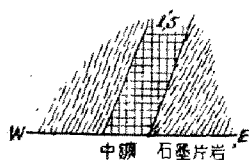


ニ鑛押シ掘進セルモノニシテ約三百三十尺ニシテ現時ノ引立ニ至ル、其間鑛床ノ幅ハ四五尺ニテ膨縮ノ變化甚シカラス、其間ニ掘下リ及掘上リ各二アリ、掘下リハ何レモ三番坑ニ貫通シ、其間幅四五尺ノ鑛床ヲ其傾斜ニ沿ヒテ掘下セルモ掘上リニテハ何レモ鑛床尖滅セリ、現時ノ引立ニテハ鑛床賦存ノ狀態第五十三圖ニ示ス

カ如シ

第五十三圖

二番坑引立

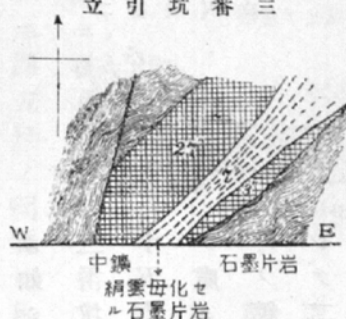


三番坑 石墨片岩中ニ開口シ略ホ北方ニ尙テ掘進シ、坑口ヨリ十五六尺ノ所ニテ坑道ニ二分岐スルモ夫レヨリ北方約七十尺ノ處ニテ再ヒ相會シ、坑道ハ急折シテ北東ニ向ヘリ、其間一尺内外ノ鑛床ニ會セリ、其間ニテ二番坑ヨリノ掘下リト貫通セリ、而シテ二坑道ノ會シタル處ヨリ約九十尺ニシテ二番坑ヨリノ掘下リト會ス、其間鑛床ハ幅一尺以内ナリ、本坑道及二番坑ヨリノ掘下リノ會合點附近ニテ北々西ニ走リ西南西八十三度ニ傾斜セル斷層ニ斷タレテヨリ以北ニハ鑛床急激ニ肥大ス、夫レヨリ北東ニ進ミ四番坑ニ通セル掘下リマテ約百八十尺ノ間ハ本鑛山ニテ最モ主要ナリシ所ニテ鑛床ノ幅十五尺内外ニシテ百分中七乃至十

ノ銅ヲ含有シ、其間約三尺ノ中石アリシニ過キスト云フモ既ニ探掘セラレタリ、夫レヨリ北東ニ進ムコト約四百尺ニシテ現時ノ引立ニ至ル、其間一ノ掘下リ及五ノ

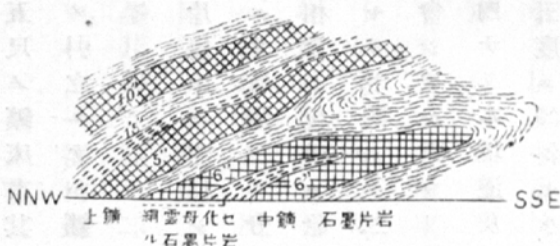
圖四十五第

立引坑番三



圖五十五第

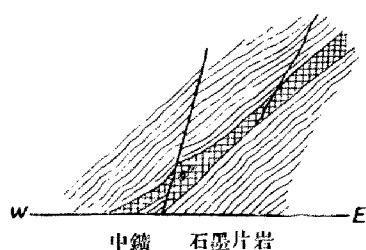
近附リ下掘二第坑番三



掘上リアルモ鑛床ハ北スルニ從ヒ極メテ緩ニ縮迫シ、引立附近ニテハ三尺内外トナレリ、現時ノ引立ニ於ケル鑛床賦存ノ狀態ハ第五十四圖ニ示スカ如シ、又本坑道ノ第二掘下リニ沿ヒ約六十尺ニテ中間坑道ニ會ス、其附近ニ於ケル鑛床及母岩ノ褶曲狀態ハ第五十五圖ニ示スカ如シ

四番坑 ハ三番坑ニテ肥大セル鑛床ノ下底ヲ探鑛スル爲メニ掘進セル坑道ニシテ石墨片岩中ニ開坑シ、北東ニ向テ掘進スルコト約三百尺ノ間石墨片岩中ヲ掘進

第十五圖  
四番坑引立



シ、坑道ハ二岐ス、即チ北西ニ向ヘルモノハ約百五十尺ニシテ更ニ二岐シ、夫レヨリ百二十尺内外ニテ引立ニ至ル、現時ノ引立ハ綠泥片岩ニシテ未タ鑛床ヲ見ス、北東ニ向ヘルモノハ分岐點ヨリ二百尺内外ニシテ東方ニ掘進セル鑛入アリ、掘進スルコト約百八十尺ニシテ引立ニ至リ綠泥片岩現ハル、モ鑛床ニ會セス、該分岐點ヨリ北ニ約百五十尺ニシテ坑道再ヒ二岐ス、北西ニ向ヘルハ上盤ニ向テノ探鑛坑道ニシテ百三十尺内外ニテ引立ニ至ルモ鑛床ヲ見ス、東セルモノハ三番坑道ヨリノ掘下リト會ス、夫レヨリ北東ニ約二百七十尺ニシテ引立ニ至ル、其間鑛床ハ二尺内外ナルモ二體トナリ、中石ハ一寸乃至五六寸ナリトス、而シテ引立ニ於ケル鑛床賦存ノ狀態ハ第五十六圖ニ示スカ如シ

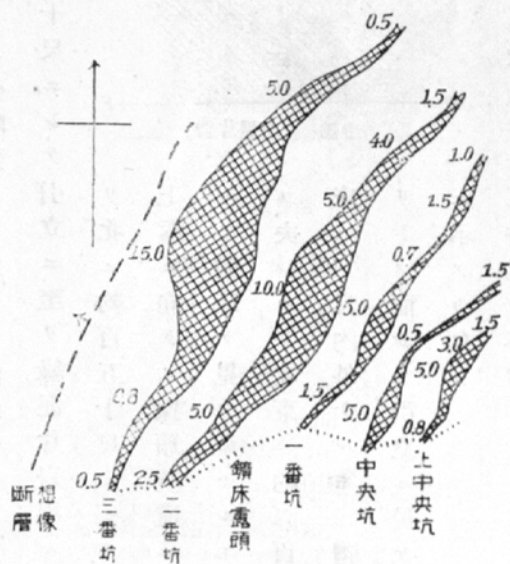
如上ノ事實ニ徴スルニ三番坑ハ本山ノ最モ主要ナル探掘場ナリシコト明カナリ、然ルニ四番坑ニ來リテ鑛床ヲ見ス其引立附近ニテ菲薄ナル鑛床ニ會セリ、想フニ該鑛床ハ三番坑ト四番坑トノ間ニテ斷層ニヨリ其主要部ヲ斷タレタルモノナル

圖七十五第

圖縮膨床鑛山鑛鈞鮎

一之分千三尺縮向走

一之分百五千尺縮サ厚



テ露頭ニテハ極メテ菲薄ナリシモノ落シニ沿ヒ六百尺掘下セサルニ十五六尺ニ肥大シ且品位亦漸次良好トナレリ而シテ更ニ深ク續クヘカリシニ斷層ニヨリ其

コトヲ參酌シテ本山ニ於ケル  
鑛床ノ膨縮狀態ヲ示セハ第五  
十七圖ノ如シ、卽チ上中央坑地  
並附近ニテハ走向延長百七十  
尺弱、最肥大部五尺ナリシモノ  
其傾斜ニ沿ヒ掘下スルニ從ヒ  
漸次肥大スルト共ニ走向延長  
亦増加シ、三番坑地並ニテハ走  
向延長七百二十餘尺、最肥大部  
十五尺トナレリ、是レ久根鑛山  
ノ鑛床ニ類似スルトコロニシ

下底ヲ斷タレ落差及轉位ノ方向不明ナルカ爲メニ本山ヲシテ休山ノ悲境ニ陷ラシメタリ

(乙)

大井鑛山(第五十八參照)

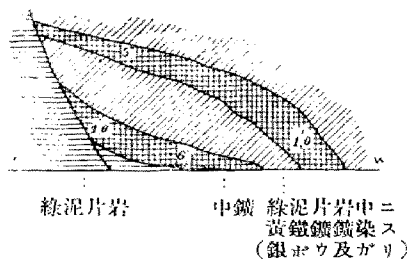
第五十八圖 大井鑛山平面圖及斷面圖



鑛床ノ露頭ハ淺間岳ノ東側ヨリ同北東麓水窪川ノ河床附近ニ及ヒ約百尺ニ互ルモ其間ニ斷續アリ其厚サハ五寸乃至一尺五六寸ナリ、始メ淺間岳ノ北東麓水窪川ノ河床附近ニ於ケル露頭部ニ開口シ、南々西ニ向テ編押ニ掘進セシモ大雨後河水増大スルニ當リテハ濁水坑内ニ漲リ作業ニ堪ヘサルヲ以テ之ヲ閉鎖シ、更ニ夫レヨリ二十四五尺上方ニ一坑道ヲ開鑿シ南々西ニ向テ掘進セリ、坑口附近ニテハ二鑛床アリ、其幅一尺及五寸ニシテ其間三尺四五寸ヲ隔テ共ニ北々

# 圖九十五第

立引押鑛一第坑切大



東—南々西ニ走リ西北西三四十度ニ傾斜ス、坑口ヨリ内部ニ向テハ鑛床ハ漸次肥大シ中石ハ漸次縮迫シ、坑口ヨリ百二十三十尺ノ處ニテハ鑛床ノ幅五尺内外ニシテ殆ント「中石」ヲ見サリシモ該附近ニテ東北東及西北西ニ走レルニ斷層ニ會シタルト及該附近ハ一帯ニ上盤ニ不規則ニ走レル裂罅多クシテ落盤甚シカリシトニヨリ之ヲ中止シ更ニ淺間岳ノ南東麓ヨリ坑道ヲ掘鑿セリ、是レ大切坑ナリ

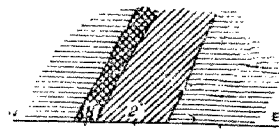
大切坑ハ石墨片岩中ニ開口シ北西ニ向テ掘進シ、坑口ヨリ百四十尺ニシテ綠簾綠泥片岩ニ會セリ、玆ニ兩岩ハ整合セルヲ見ル、夫レヨリ北西ニ進ムコト約百三十尺

ニシテ坑道二岐ス、左(西向)セルモノハ上盤鑛入探鑛坑道ニテ約六十尺掘進シテ中止セリ、其間ハ綠簾綠泥片岩ニシテ二箇處ニテ鑛床ニ會セルモ其幅僅カニ二三寸且品位貧劣ナルヲ以テ探掘ニ堪ハス、右(北々西向)セルモノハ約七十尺内外ニシテ幅三尺内外ノ鑛床ニ會シ南々西ニ向ヒ掘進シ二十尺内外掘進シ現引立トナル、現引立ニ於ケル賦存狀態ハ第五十九圖ニ示スカ如シ、夫レヨリ北々



# 第十六圖

大切坑上盤鋸入引立



岩片泥綠 ガリ 上鑛

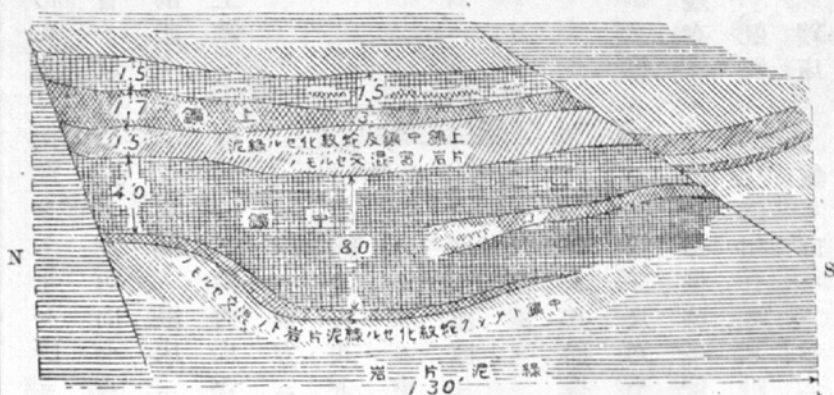
東ニ約九十尺掘進シテ北々西ニ走レル斷層現ハル、モ殆ント轉位セス直チニ鑛床ニ會シ坑道分岐ス左(西向)セルモノハ上盤鋸入ニシテ該分岐點ヨリ約四十尺ニシテ前記ノモノト別個ノ鑛床ニ會セリ、該鑛床ハ扁桃狀ヲ成シ其幅約三尺ニシテ其中上鑛ハ上盤ニ倚リ幅約八寸、其他ハ「ガリ」ニ屬シ兩者ノ境界判然ス(第六十圖參照)、該鑛

床ハ南方ニテハ略ホ南北ニ走レル斷層ニ斷タレ、北方ニ漸次縮迫シ、其走向延長約三十五尺ニシテ尖滅セリ、既記ノ分岐點ヨリ北々東ニ向ヘルモノハ鋤押ニ掘進シ上段及下段ニ分岐ス、平面圖ニテ東側ニアルモノハ西側ニアルモノヨリ三四十尺高處ニアリ、其走向ニ沿ヒ約二百尺ニシテ二坑道ハ再ヒ相合ス、其採掘跡ハ土砂及母岩片ニテ充填セラル、ヲ以テ之ヲ

檢スルヲ得ス、聞ク其幅三尺乃至十三尺ニシテ其中一二尺ノ中石ヲ挾有セリト現時殘存セル上段ノ採掘跡ニ就キテ觀ルニ鑛床賦存ノ狀態ハ第六十一圖ニ示スカ如シ、既記ノ二坑道相合スル附近ニハ幾多ノ斷層現出セルヲ以テ坑內圖ニ示スカ如ク鑛床ノ上盤ニ、或ハ下盤ニ向テ採鑛坑道ヲ掘進セルモ終ニ鑛床ニ會セスシ

# 圖一十六第

跡掘探段上坑切大



テ中止セリ、然ルニ銅押ニ掘進セルモノハ直チ  
ニ幅五尺内外ノ鑛床ニ會セリ、而シテ坑道ハ三  
段トナレリ、坑内平面圖ニテ東端ニアルモノハ  
最上段ニ、中央ニアルモノハ中段ニ、西端ニアル  
モノハ最下段ニ位ス、該處ニ於ケル鑛床ハ幅五  
尺乃至七尺アリシト云フモ殆ント悉ク採掘セ  
ラレ、現時ハ僅ニ龍頭トシテ殘存セルニ過キス  
夫レヨリ是等三段ノ坑道ハ北々東ニ向ヒ銅押  
ニ五六十尺掘進シテ既記ノ斷層及舊坑ニ貫通  
セリト稱スルモ現時ハ其大部分廢類シ之ヲ檢  
スルコト難シ

## (三) 天白及名合鑛山

### (イ) 位置及沿革

天白及名合鑛山ハ久根鑛山ノ南方約一里半ニ位シ、秋葉街道ニ沿ヘル一邑名合ノ上下ニアリ、即チ天白鑛山ハ名合ノ北東六七町ニシテ約三百米高キ所ニアリテ名合鑛山ハ西下方約三百米ニアリテ天龍川ノ河床ニ近シ

天白鑛山ハ明治三十六七年ノ交周智郡氣田ノ某氏玆ニ試掘ヲ企テシニ始マリ幾許モナク中止シ同四十二年ニ至リ古河合名會社ノ有トナリ翌四十三年ヨリ大正二年マテ試掘セシモ市況不振ノ爲メ一時中止シ同七年七月之ヲ再開セシモ結果良好ナラス、同八年十一月終ニ休業シ以テ今日ニ及ヘリ、當時ノ舊坑ハ大部分殘存シ之ヲ檢スルヲ得ヘシ

名合鑛山ハ今ヨリ六七十年前氣田ノ某氏試掘シ其後峰澤鑛山ノ支山トシテ一時探鑛セラレシモ良鑛ヲ得スシテ中止セリ、大正二年ニ至リ久根鑛山ノ支山トナリ爾來大正九年ニ至ルマテ試掘セラレタリ、然レトモ其結果良好ナラスシテ之ヲ中止シ以テ今日ニ及ヘリ、當時ノ舊坑ハ大部分殘存シテ之ヲ檢スルヲ得ヘシ

## (ロ) 鑛 床

鑛床ハ其ニ既記綠簾角閃片岩帶中ニアルモ該鑛床ニ接スル所ニテハ角閃石ハ殆ント全ク綠泥化セリ、故ニ茲ニハ綠簾綠泥片岩ノ名ヲ借り以下之ニ準ス、而シテ名合鑛山ニテハ石墨片岩ノ薄層ヲ挟有セルヲ見ル、鑛床ハ一般ニ層狀ヲ成スモ局部ニハ片理ト交ハレリ、其走向ハ北々東乃至北東ニシテ天白鑛山ニテハ北西五十度内外ニ傾斜スルニ名合鑛山ニテハ南東三十五度乃至八十度ニ傾斜ス

### (ハ) 鑛石ノ性質

鑛石ハ主ニ黃鐵鑛、磁鐵鑛及石英ノ密ニ混交スルモノニ極メテ少量ノ黃銅ヲ伴ヘリ、而シテ天白鑛山ニテハ磁鐵鑛極メテ少ナク主ニ黃鐵鑛及石英ヨリ成リ久根鑛山ノ銀、ボウ乃至、ガリニ該當スルモノニ過キス、名合鑛山ニテハ磁鐵鑛著シク増加シ黃鐵鑛及石英(殆ント常ニ少量ノ黃銅鑛ヲ伴フ)ト共ニ脈狀ヲ成スモノ亦少ナカラス、曾テハ局部ニ百分中六内外ノ銅ヲ含有セル所アリシト云フモ現時ノ舊坑ニテハ斯クノ如キ良鑛ヲ得ル能ハスシテ何レモ久根鑛山ノガリ以下ノモノニ屬ス、是等二鑛山ノ舊坑内ニテ採集セルモノニ就キ本所分析係ニテ分析セル結果左ノ如シ

| 採集箇所 | 鑛種 | 銅    | 鐵     | 硫     | 黃     | 硅    | 酸    | ニツケル | 亞 | 鉛 |
|------|----|------|-------|-------|-------|------|------|------|---|---|
| 天白鑛山 |    | 〇・九〇 | 三三・二四 | 三八・八二 | 一八・一一 | 現存セス | 現存セス |      |   |   |
| 同    |    | 〇・三八 | 三八・七四 | 九・三五  | 二三・三五 | 同    | 同    |      |   |   |
| 名合鑛山 |    | 痕跡   | 三〇・二四 | 三〇・一二 | 二二・六八 | 同    | 同    |      |   |   |
| 同    |    | 〇・五〇 | 四五・七八 | 〇・四〇  | 一九・六六 | 同    | 同    |      |   |   |
| 同    |    | 一・九八 | 五・六七  | 四八・六  | 八〇・三三 | 同    | 同    |      |   |   |

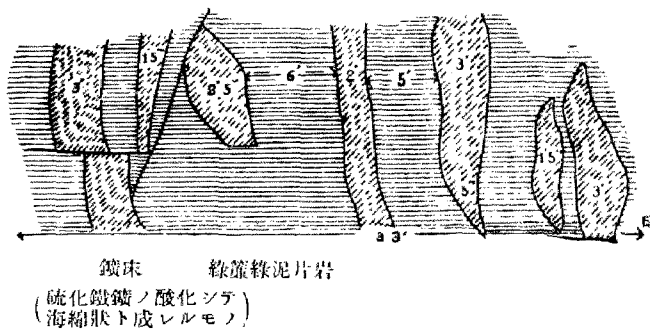
(甲) 天白鑛山

鑛床ノ露頭ハ天龍川ノ水面ヨリ約七百米高キ處ニアリ、其厚サ三十尺内外ト稱スルモ其賦存狀態ハ第六十二圖ニ示スカ如クニシテ母岩中ニ極メテ少量ノ黃鐵鑛散點スルヲ見ルノミニシテ久根鑛山ノ銀ボウニ該當スルカ如キモノ更ニ無シ、想フニ該鑛床ノ生成ニ先立チテ母岩中ニ幾多ノ少ナル龜裂生スルヤ或幅ノ間特ニ少ナル龜裂ニ富ミ其後鑛素上昇シテ現時見ルカ如キ形ヲ成セシモノナルヘシ、之ニ開口セル坑道ハ天龍川ノ水面ヨリノ高サニ準シ二千三百尺坑、二千二百尺坑、二

千  
百  
尺  
坑、千  
九  
百  
尺  
坑、千  
八  
百  
五  
十  
尺  
坑及千  
八  
百  
尺  
坑ノ六  
坑ナリト  
ス(第六  
十三  
圖參照)  
 二  
千  
三  
百  
尺  
坑　ハ南  
東ニ向  
ヘル鑛  
入ナリ  
、坑口  
ヨリ三  
十尺内  
外ニシ  
テ鑛床  
ニ會セ

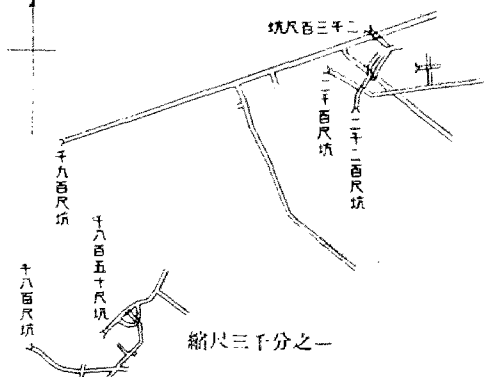
圖二十六第

頭露床鑛山鑛白天



圖三十六第

圖内坑山鑛白天



ルモ其幅六七寸ニ過キス、且鑛石ノ品位極メテ貧劣ニシテ久根鑛山ノ「ガリ」以下ナリトス、夫レヨリ南西及東北東ニ數十尺掘進セルモ終ニ鑛床ニ會セスシテ中止セリ

二千二百尺坑　ハ前述ノ露頭ノ西端ニ開口シ北々東ニ向ヒ錘押ニ掘進セリ、坑口附近ニテハ鑛床ノ幅約三尺アルモ坑道掘進ト共ニ漸次縮迫シ現引立附近ニテハ六寸弱トナレリ、其間ニ小ナル斷層二三アリ、鑛石ノ品位ハ久根鑛山ノ「ガリ」以下ニシテ鑛石トシテ採掘ニ堪ヘス

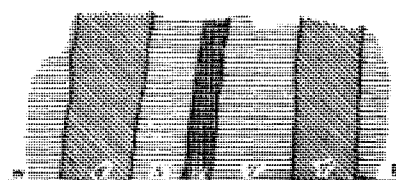
二千百尺坑　ハ東南東ニ向テ開口シ、坑口ヨリ約六十尺ニシテ折レテ東方ニ向ヘリ、夫レヨリ百尺内外ニシテ坑道分岐シ、北々東ニ約五十尺掘進セルモ綠泥片岩ノミニシテ終ニ鑛床ニ會セス東ニ掘進セルモノモ鑛床ニ會セスシテ中止セリ

千九百尺坑　ハ東北東ニ向テ開口シ坑口ヨリ二百五十尺内外ノ處ニテ坑道二岐ス、南々東ニ掘進セルモノハ約三百尺ニシテ引立ニ至ルモ終ニ鑛床ニ會セスシテ中止セリ、北々東ニ向ヘルモノハ其分岐點附近ニテ鑛床ニ會シ、錘押ニ掘進セルモ其幅僅カニ七八寸ニシテ鑛石ノ品位貧劣ナルヲ以テ採掘ニ堪ヘスシテ中止セリ、

夫レヨリ東北東ニ向ヒ約二百七十尺掘進シテ現引立ニ達セルモ其間綠泥片岩ノ  
ミニシテ終ニ鑛床ニ會セスシテ中止セリ  
千八百五十尺坑　ハ北東ニ向テ開口ス、是レ前述ノモノト別個ニ處スル鑛床ノ露

# 圖四十六第

頭露ノ方上口々坑尺十五百八千



綠簾綠泥片岩

中粒ノ黃鐵  
鐵ヨリ成ル

主ニ磁鐵鑛ヨリ成  
リ之ニ黃銅鑛及  
黃鐵ヲ隨伴ス

内約二十五尺アリ、該處ヨリ北東ニ二十尺掘進シ坑道北々西ニ折レ、是レ略ホ南北  
ニ走ル斷層ニ會セル爲メニシテ夫レヨリ三十五尺内外ニ折レテ北西ニ向フ、是レ  
北西ニ走ル斷層ニ斷タル、ノ故ナリ、夫レヨリ三十尺内外ニシテ現引立ニ至ルモ

頭(第十六圖參照)ノ下部ニ向ヘル鑛入ニシテ坑口ヨリ  
約四十尺掘進シテ鑛床ニ會シ、夫レヨリ鑛押ニ掘  
進スルト共ニ下盤ニ向ヘル鑛入ヲ掘進セリト稱  
スルモ現時ハ坑道廢類シテ之ヲ檢スルヲ得ス  
千八百尺坑　ハ東南東ニ向テ開口ス、坑口ヨリ約  
七十尺ニシテ鑛床ニ會シ、鑛ノ内ヲ約三十尺掘進  
シテ下盤ヲ見ル、夫レヨリ北東ニ向ヒ鑛押ニ掘進  
シ約四十尺ニシテ上下兩盤ニ鑛入ヲ掘進シ鑛ノ



現引立ニハ鑛床ヲ見ス、本坑道ニ於ケル鑛床ハ鑛ノ内約三十尺ナルモ其中良好ニシテ鑛石トシテ探掘シ得ルモノハ幅僅カニ五六寸ノモノ二三アルノミニシテ其他ハ探掘ニ堪ヘス

之ヲ要スルニ本山ニ於ケル鑛石ハ探掘ニ堪ユルモノ極メテ少量ニシテ恐ラク將來ト雖モ經營スルコト困難ナルヘシ

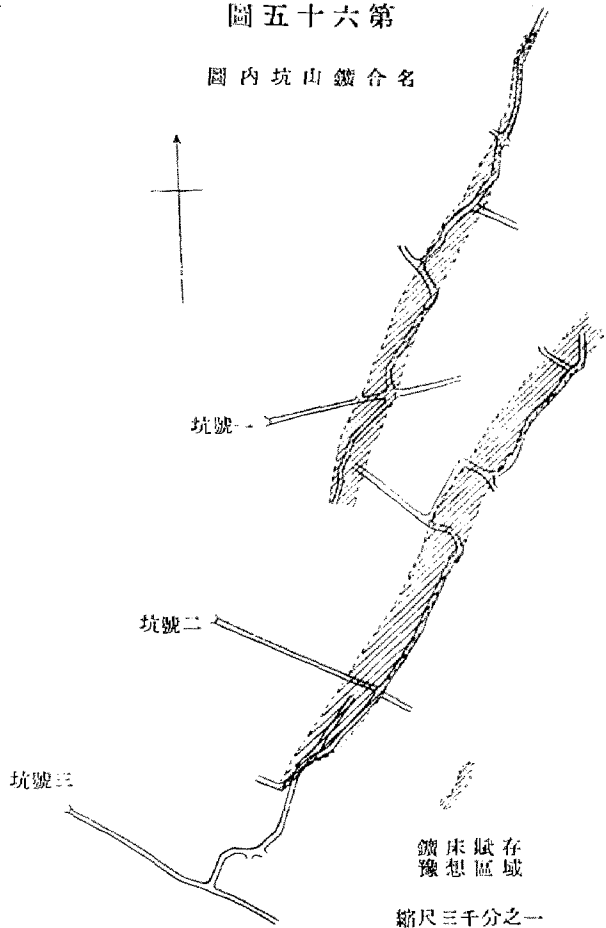
## (乙) 名合鑛山

本山ノ露頭ハ二箇處ニアリ、其開掘充分ナラサルヲ以テ其間ノ斷續明カナラサレトモ坑内ノ狀況ニ徴スレハ相連續スルモノ、如シ、其走向ハ北々東ニシテ東南東ニ八十度内外ニ傾斜ス、之ニ開坑セル坑道ハ何レモ鑛入ニシテ上ヨリ一號坑二號坑及三號坑ノ三アリ(第六十五圖參照)

一號坑　ハ天龍川ヨリ約百十尺高キ處ニテ綠簾角閃片岩中ニ開口シ、東北東ニ向テ掘進シ、坑口ヨリ約三十尺ニシテ石墨片岩ニ會シ其境界判然ス、夫レヨリ約七十尺ニシテ鑛床ニ會セリ、更ニ三十尺内外ニシテ坑道ハ其儘東北東ニ掘進セルモノ

圖五十六第

圖内坑山鑛合名

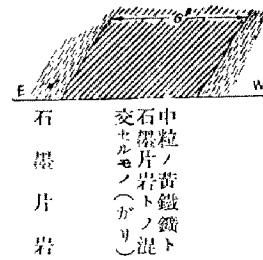


判然シ、北四十度東ニ走リ南東三十五度ニ傾斜ス、北々東及南西ニ向ヘルモノハ鑛床ノ上盤ニ沿ヒ錘押ニ掘進セルモノニシテ其南西ニ向ヘルモノハ約百五十尺ニシテ引立ニ至ル、其間坑道ノ東側ハ鑛床ノ上盤タル石墨片岩ニシテ西側ハ鑛床ナ

ト北々東及南西ニ向ヘルモノトニ分ル、東北東ニ向ヘルモノハ鑛床ノ上盤ニ向テノ鑛入ニシテ該分岐點ヨリ約七十尺ノ間ハ石墨片岩ナルモ夫レヨリ東ハ綠泥片岩ニシテ其境界

# 圖六十六第

ルケ於ニ立引西南坑號一  
態狀ノ存賦床鑛



リ、而シテ引立ニ於ケル鑛床賦存ノ狀態ハ第六十六圖ニ示スカ如シ、北々東ニ向ヘルハ鑛床上盤ニ沿ル鑛押ニシテ坑道ノ東側ハ石墨岩片岩、西側ハ鑛石ニシテ該分岐點ヨリ約百二十尺ノ處ニテ北四十度西ニ走リ北東八十五度ニ傾斜セル斷層アリテ鑛床ハ斷タル、夫レヨリ斷層ニ沿ヒ北西方ニ約四十尺掘進シテ下盤ニ會シ坑道二岐ス、即チ一ハ北西ニ向ヒ鑛床ノ下盤ニ向ヘル鑛入ニシテ四十尺内外ニシテ引立ニ至ル、引立ニテハ綠泥片岩ヲ見ル、該分岐點ヨリ北東ニ向ヘル坑道ハ鑛床ノ下盤ニ沿ヒ鑛押ニ掘進セルモノニシテ約百尺ニシテ再ヒ坑道分岐ス、東南東ニ向ヘルモノハ鑛床ノ上盤ニ向ヘル鑛入ニシテ二尺内外ニシテ上盤タル綠泥片岩ニ會シ夫レヨリ約六十尺掘進セルモ鑛床ニ會セスシテ中止セリ北東ニ向ヘル坑道ハ其東側ニ綠泥片岩、西側ニ鑛石ヲ見テ掘進シ、約百尺ニシテ鑛床ノ上下兩盤ニ向テ鑛入ヲ掘進セリ、下盤ニ向ヘルモノハ直チニ下盤タル石墨片岩ニ會シ上盤ニ向ヘルモノ亦同様ナリ、即チ該附近ニテハ鑛床ハ幅約三尺内外トナレリ、夫レヨ

圖七十六第

於ニ立引東北坑號一  
態狀ノ存賦床鑛ルケ



圖八十六第

態狀ノ存賦床鑛ルケ於ニ入鑛坑號一



リ更ニ北東ニ向テ鑛床ノ上盤ニ沿ヒ鑛押ニ掘進スルコ  
ト約二百尺内外ニテシ現引立ニ至ル該處ニ於ケル鑛床  
賦存ノ狀態ハ第六十七圖ニ示スカ如シ

二號坑 ハ一號坑ノ南々西約二百五十尺ニアリ百十尺  
下方ニアリ、東南東ニ向ヒ綠簾角閃片岩中ニ開口シ、坑口  
ヨリ約百四十尺ニシテ北四十度東ニ走リ南東四十五度  
ニ傾斜スル鑛床ニ會セリ、該附近ニテハ角閃片岩ハ綠泥  
片岩トナレルモ其間漸移スルモノ、如シ、更ニ約六十尺  
掘進シテ坑道ハ十字形ニ分岐シ、其儘掘進セルモノハ鑛  
床ノ上盤ニ向ヘル鑛入ニシテ該分岐點ヨリ五六尺ニシ  
テ上盤タル綠泥片岩ニ會セリ、故ニ此處ニ於ケル鑛床ノ  
幅ハ約六十五尺ナリ、該處ニ於ケル鑛床賦存ノ狀態ハ第  
六十八圖ニ示スカ如シ、南西ニ向ヘルモノハ鑛床ノ上盤  
ニ沿ヒ鑛押ニ掘進セルモノニシテ約百八十尺ニシテ坑

道ハ西北西ニ向ヘリ、是レ該附近ニテ鑛床縮迫スルヲ以テ其下盤ニ向ヘル鋸入ニシテ夫レヨリ三十五尺内外ニシテ引立ニ至ル、該處ニハ下盤タル綠簾綠泥片岩アリ、坑道ノ屈曲スル附近ニ於ケル鑛床ノ幅ハ約二十尺アリ、而シテ尙南西ニ連續スルモ其含銅品位極メテ貧劣ナルヲ以テ之カ採掘ヲ中止セリ、既記ノ分岐點ヨリ北東ニ向ヘルモノハ鑛床ノ上盤ニ沿ヒ鎚押ニ掘進セルモノニシテ約二百尺ノ處ニテ坑道ハ折レテ北西ニ向ヒ約六十尺掘進シテ鑛床ノ下盤タル綠簾綠泥片岩ニ會シ坑道二岐ス、茲ニテハ鑛床ノ幅約五十尺アリ、北西ニ向ヘルモノニハ約百二十尺ニシテ引立ニ至ル、其間綠泥片岩ニシテ該引立ニハ一號坑ニ貫通セシムル目的ヲ以テ六十尺内外掘上レル堅坑アリ、北東ニ向ヘルモノハ下盤ニ沿ヒ掘進シ約八十尺ニシテ東南北ニ屈曲セリ、是レ小ナル斷層ノ現出セルニ因ルモノニシテ坑道ハ更ニ上盤ニ沿ヒ北東ニ向ヒ掘進セリ、該處附近ニテハ鑛床ノ幅約二十五尺アリ、夫レヨリ約百五十尺ニシテ坑道二岐ス、該分岐點ヨリ北西ニ向ヘルモノハ鑛床ノ下盤ニ向ヘル鋸入ニシテ約四十五尺ニシテ現引立ニ至ル、而シテ引立附近ハ綠泥片岩ヨリ成ル、然ルニ北東ニ向ヘルモノハ鑛床ノ上盤タル綠泥片岩中ニ入ルヲ以テ

終ニ鑛床ニ會セスシテ中止セリ、該處附近ニテ母岩ハ北東ニ走リ南東六七十度ニ傾斜セリ

三號坑　ハ二號坑ノ南西三百尺、約百尺下リテ綠簾角閃片岩中ニ開口セリ、東南東ニ向ヒ約二百十尺ニ掘進シテ坑道二岐ス、是レ該處ニテ幅二三寸ノ鑛床ニ會セルノ故ニシテ該鑛床ハ北二十度東ニ走リ西北六十度ニ傾斜シ一號坑及二號坑ニ於ケルモノト傾斜逆轉ス、分岐點ヨリ東南東ニ向ヘルモノハ百六十尺掘進セルモ遂ニ鑛床ニ會セス、該附近ニテ母岩ハ北三十度東ニ走リ南東五十度乃至七十度ニ傾斜ス、既記ノ分岐點ヨリ北々東ニ向ヘル坑道ハ二三寸ノ鑛ヲ鑛押ニ掘進シ六十尺ニシテ小ナル斷層ニ會シタルヲ以テ東北東ニ折レ三十尺内外ニシテ再ヒ二三ノ斷層ニ會シ北東ニ轉シ、二百尺内外ニシテ現引立ニ至ル、其間四五寸乃至一尺内外ノ鑛ヲ鑛押ニ掘進セルモノニシテ二號坑ノモノ、下底ニ當リ品位極メテ貧劣到底鑛石トシテ採掘ニ堪ヘス、現引立附近ニテハ母岩及鑛床共ニ北三十五度東ニ走リ北西六十度ニ傾斜ス

之ヲ要スルニ本山ノ鑛床ハ三號坑地並以下ニ向テハ著シク縮迫スルモノ、如ク

將來ト雖モ稼行スルコト能ハサルヘシ、而シテ天白鑛山及名合鑛山ノ鑛石ヲ比較スルニ略ホ相似タリ、唯名合鑛山ニ於テ磁鐵鑛ノ著シク増加セル差アルノミ、加フルニ名合鑛山ノ鑛床ハ一號坑及二號坑ニ於テハ南東ニ傾斜スルニ三號坑ニテハ北西ニ傾斜ス、想フニ名合鑛山ノ鑛床ハ天白鑛山ノモノ、下底ニシテ其間ハ幾多ノ斷層ニヨリ斷タレシモノナルヘシ

#### (四) 其他ノ鑛山

鳴瀨舊坑 ハ鳴瀨澤ノ澤口附近ニテ澤ノ南岸ニアリ、十二三年前久根鑛山ニテ試掘シ結果良好ナラスシテ休止シ現時舊坑廢頽ス、鑛床ハ綠簾角閃片岩帶中ニアリ、聞ク該鑛床ハ北々東ニ走リ西北西三四十度ニ傾斜シ幅二尺以下ニシテ主ニ黃鐵鑛ヨリ成リ母岩ト共ニ縞狀構造ヲ成シ品位貧劣ナリシト云フ

和泉舊坑 ハ久根鑛山ノ東北東約十町、水窪川ノ東岸ニ位シ其間ニ明光寺峠ヲ隔ツ、今日ヨリ七八年前試掘セラレタルモノニシテ現時舊坑廢頽ス、鑛床ハ石罍綠泥片岩中ニ賦存シ北東ニ走リ北西五十度内外ニ傾斜ス、聞ク鑛床ノ幅ハ僅カニ一尺

内外ニシテ鑛石ハ主ニ黃鐵鑛ヨリ成リ縞狀ヲ成シ品位貧劣ナルト斷層續出セルトニヨリ中止セリト云フ

其外鑛床ノ露頭ト稱スヘキハ和泉舊坑ノ東方約六町ノ小溪中及相月ノ部落ノ西方約四町ノ路傍ニアリ、何レモ石墨片岩中ニ層狀ヲ成セルモ厚サ一尺以下ニシテ未タ開掘セラレサルヲ以テ其走向及落シノ延長明カナラス、鑛石ハ細粒ノ黃鐵鑛及石英ノ密雜スルモノニ屬ス

佐久間村神妻ノ不動澤ニ於ケルモノハ唯其源頭ニ品位貧劣ナル黃鐵鑛及褐鐵鑛ノ散在スルモノニシテ恐ラク石墨綠泥片岩中ニ賦存スルモノナランモ未タ全ク開掘セラレサルヲ以テ其大サノ推定ニ要スル資料ナシ

## 六 結 章

域内ノ鑛床ハ石墨片岩ト綠簾綠泥片岩トノ間ニ、或ハ石墨片岩中ニ或ハ綠簾綠泥片岩中ニ賦存シ概ネ扁桃狀ヲ成セル一個又ハ數個ノ鑛體ヨリ成リ各鑛體ノ走向ト母岩ノ片理トハ一致スルモ鑛床ノ落シノ方向ト母岩ノ傾斜ノ方向トハ十度乃



至三十度ノ角ヲ成ス、而シテ鮎釣鑛山ノ鑛床及久根鑛山ノ鑛床ノ一部ニ見ルカ如ク鑛床ノ石墨片岩中ニ賦存スルトコロニテハ其上下兩盤肌判然スルモ大井、天白及名合三鑛山及久根鑛山ノ鑛床ニ見ルカ如ク鑛床ノ綠泥片岩中ニ賦存スルトコロニテハ其盤肌判然セサルヲ普通トス、久根鑛山下一番坑ヨリ下五番坑ニ至ル各坑道ニ見ルカ如ク鑛床ノ石墨片岩ト綠泥片岩トノ間ニ賦存スルトコロニ石墨片岩ト鑛床トノ境界ハ一般ニ判然スルモ綠泥片岩トノ境界ハ判然セス、鑛床ノ肥大部ニ於ケル鑛石ハ一般ニ黃鐵鑛、黃銅鑛及石英ノ密雜スルモノヨリ成リ其走向ニ沿ヒ漸次縮迫スルニ從ヒ黃銅鑛減少シ著シク硅質トナリ中粒乃至粗粒ノ黃鐵鑛現出スルニ至リ其間ハ漸移スルヲ普通トス、而シテ久根鑛山ノ鑛床ノ如ク母岩ノ甚シク壓碎セラレタル部分ニ賦存スルモノハ其他ニ比シ遙ニ大ナリトス  
更ニ久根鑛山ノ鑛床中肥大セルトコロニテハ鑛床ノ上下兩盤ヲ成セル母岩ハ蛇紋化セラレ又鑛床ノ肥大部ニテハ上部ヨリ下部ニ互リテ黃銅鑛、黃鐵鑛、方解石、石英及石膏ハ鑛床中ニ不規則ニ走レル數多ノ裂罅ヲ充填シ又黃銅鑛並ニ黃鐵鑛ヲ伴ヘル石英ハ外廓不規則ナル點紋狀ヲ成シテ稍多量ニ散點シ爲メニ鑛石ノ品位

ハ良好トナル、此外上二番坑及下四番坑ニテ見ルカ如ク上鑛中ニハ其數二三ニ過キサルモ幅三分乃至一寸ノ黃銅鑛脈アリ

鮎釣鑛山ノ鑛床ハ肥大部ニ磁硫鐵鑛殊ニ多クシテ其上下兩盤ヲ成セル石墨片岩ハ數寸乃至數尺ノ間殆ント常ニ絹雲母化作用ヲ被レリ、大井鑛山ノ鑛床中其肥大部ニハ前述ノ磁硫鐵鑛減シテ黃銅鑛増加ス、天白及名合兩鑛山ノ鑛床ニテハ磁鐵鑛及石英著シク増加シ二號坑ノ一部ニハ其中ニ黃銅鑛ヲ伴ヘル石英ノ脈狀ヲ成セルモノアリ